

# れんけいしゅう!

地域医療支援病院  
 広島県指定がん診療連携拠点病院  
 災害拠点病院  
 広島DMAT指定病院  
 日本医療機能評価機構認定病院



国家公務員共済組合連合会

呉共済病院

## TOPICS

- ◆「新年のご挨拶」 病院長 寺坂薫
- ◆「脳神経外科新任医師のご紹介」
- ◆「転んだ時に衝撃を和らげるマットを導入しています～転倒による骨折リスクを軽減～」安全管理対策室
- ◆「地域医療連携室NEWS」



## 病院の理念

高度・良質の医療 最善の奉仕  
 研鑽と協調 地域医療の支援

## 基本方針

- 一 良質で適切な医療の提供に努めます
- 二 患者さんの権利を尊重し 患者さんの満足・安心・信頼を追求します
- 三 新しい知識と技術を積極的に習得し 常に質の高い先進的医療を行います
- 四 地域の中核病院として地域社会の要請に応える医療を提供します
- 五 職員が意欲をもって働ける病院をめざします
- 六 次代を担う有能な医療従事者の育成をめざします
- 七 専門的ながん医療の提供に努めます
- 八 国内での医療救護活動に積極的に参加します

呉共済病院キャッチコピー

まもりたい、  
 あなたの明日と  
 地域の医療。



呉共済病院は、県指定のがん診療連携拠点病院です。がん検診などでがんの疑いがあると診断された患者さんの精密検査や治療を行っています。是非ご紹介ください。

## 地域医療連携室 NEWS

	2022年10月	2022年11月	2022年度累計
紹介患者数《初再診全て》	1030	978	7414
逆紹介患者数	918	974	7287
紹介率	73.3%	68.6%	66.4%



# 新年のご挨拶

病院長 寺坂 薫

新年あけましておめでとうございます。

開業医の先生方には、いつも多くの患者様を紹介していただき、ありがとうございます。

2023年は十二支でいうと「卯年」、十干では「癸」となり干支は「癸卯(みずのとう)」となります。「癸」は「揆(はかる)」という文字の一部で「種子が計ることができるほどの大きさになり、春の間近でつぼみが花開く直前である」という意味です。「卯」は「茂」という字が由来で「春の訪れを感じる」という意味があります。この2つの組み合わせで2023年の卯年は、「これまでの努力が花開き、実り始めること」といった縁起のよさを表しています。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は2020年1月15日に最初の感染者が日本で確認され、その後、デルタ変異株、オミクロン変異株など、さまざまに変異し現在、第8波の流行となっています。当院でも2022年には2度のクラスターが発生し、病棟閉鎖、救急患者の受け入れをお断りするなど、皆様にはご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。

この数年間はコロナ禍もあり、どちらかという、後ろ向きの時代でしたが、「癸卯」の如く、今年は「飛躍」し、私たちの生活が大きく「向上」する年にしていきたいと思います。

2022年、当院では患者様に更なる寄り添った優しい医療を目指し、まず医療従事者である当院職員の意識の改革に務めました。そのひとつが、病院の理念とは別にキャッチコピー「まもりたい、あなたの明日と地域の医療。」を、また、このキャッチコピーを実行するための約束事であるクレド(信条)「①心のこもった挨拶と笑顔で接します。②患者さんに寄り添った医療サービスを提供します。③先進的な医療を提供します。④プロフェッショナルとしての自覚を持ち行動します。」を新たに作成しました。どれも当然の事ですが、職員がこれらの意識を共通認識として常に持ち、行動するための意識づけとしました。

呉地域では少子高齢化の問題もあり、地域医療構想会議の中で、急性期の病床が余剰で、回復期病床が不足しているとのデータもあります。急性期治療後、行き場所の無い患者様も多数おられ、当院では2022年3月に地域包括ケア病棟34床を開設し、急性期から、回復期によりスムーズに移行できるようにしました。

ジョン・F・ケネディは講演でChange is the law of life. And those who look only to the past or present are certain to miss the future. (変化は人生の法則だ。過去または現在しか見ない人は確実に未来を見失う。)と述べています。

コロナ禍、ウクライナ侵攻など世界、社会、経済も色々問題はありますが、医療・介護・福祉の激動期にいる私たちが、より広く深く多くの情報を収集し、分析、検討、情報交換を行いながら、常に変化しながらも、未来も安心して暮らせる医療が維持されるようにしていきたいと思います。

呉地域の医療を守るため、ますます、努力する所存でありますので、開業医の皆様とのさらなるご協力をよろしくお願いいたします。

# 脳神経外科 新任医師のご紹介

12月採用の新任医師をご紹介します。  
よろしくお願いいたします。

ほそもと かける  
**細本 翔 医師**



- ◆診療科
- ◆免許取得年
- ◆専門・得意分野
  
- ◆資格等

脳神経外科  
H25年  
脳神経外科全般  
機能的脳神経外科  
脳神経外科専門医  
バクロフェン髄腔内投与(ITB)療法  
ボトックス療法

山口大学を卒業し、広島市民病院、岡山大学病院で勤務・研究を行い、12月より赴任しました。前任地ではパーキンソン病や振戦、難治性疼痛、てんかんに対する外科治療に携わっておりました。呉の医療に貢献できるよう努力して参ります。

## 脳神経外科 外来担当表

	月	火	水	木	金
1診	細本 翔	寺坂 薫	桑原 研	木村 颯	手術日
2診	栗山 充夫	細本 翔	栗山 充夫		手術日

～上司よりひとこと～

優秀でセンスのある脳神経外科医です。  
脳卒中、脳外科疾患など余裕をもって対応できるようになりました。  
ご紹介の程、よろしくお願いいたします。

# 転んだ時に衝撃を和らげるマットを導入しています ～転倒による骨折リスクを軽減～

## 安全管理対策室

当院では、入院患者さんの転倒転落防止対策に取り組んでいます。

入院時より転倒・転落リスクアセスメントシートによる危険度の評価を行い、転倒防止に必要な療養環境の調整や薬物（骨粗鬆症予防薬の投与）対策などを講じています。療養環境においては、低床ベット、L字柵、ロック式オーバーベットテーブル、離床センサーなどの活用を行っています。

2021年11月には、各病棟に緩衝マットを導入しました。通常時は硬く転びにくく、転んだ時だけ柔らかくなる「歩行安定性」と「衝撃吸収性」の両方を兼ね備えたマットです。特に転倒リスクの高い脳神経外科、整形外科病棟では、重症患者を管理する病室の床全面に緩衝マットを設置しています。2022年12月現在、緩衝マット上での転倒骨折事例は発症していません。



入院による生活環境の変化から、転倒転落の危険性が高くなるため、医療と生活の両面から転倒転落予防の療養環境を整えていく必要があります。しかし、転倒転落を防止しようとするあまり、過剰な行動抑止をすることは身体機能の低下（フレイル）をきたし、逆にその後の生活の質の低下に繋がります。転倒転落事故の発生をゼロにすることは出来ませんが、それを不可抗力と捉えるのではなく患者自身が安定した行動ができるように支援しつつ、併せて転倒転落防止を考えなければなりません。当院では、患者・家族と共に転倒転落のきっかけとなる危険要因の回避を図り、事故防止に取り組む上で、転倒時に衝撃緩和のための緩衝マットの必要性を感じ、今回の導入にいたしました。

緩衝マット導入とともに、看護部とリハビリテーション科によるラウンドを開始し、より適切な療養環境になるように取り組んでいます。無形の効果として、緩衝マット上での転倒骨折が防げるだけでなく、理学療法士を含め多職種の転倒予防意識が向上したことや、ケアする看護師の心身の負担が軽減したことも評価され、現在、累計設置面積が約134平米となり、急性期病院において日本で一番、緩衝マットの設置面積が広い病院となっています。